

グアテマラ（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在グアテマラ日本国大使館](#)

1. 2024年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
0	0	0	0	0	0	1	1	35	4	13	245	5	14	280

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

グアテマラにおける日本語教育は、首都に位置する国立サン・カルロス大学附属言語センター（CALUSAC）において、1992年、日本語教師を職種とする JICA 海外協力隊員によって開始され、2025年の学期終了をもって33年を迎える。

同センターは、1976年に設立され、現在、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ヘブライ語、中国語、日本語、韓国語、ロシア語、ポルトガル語、ラテン語、アラビア語、国内の先住民言語（4言語）の計16言語が開講されている。一般市民にも広く開放されており、国の言語センターとしての役割を果たしている。

国立サン・カルロス大学は、23万5千人超の学生を抱える総合大学であり、CALUSACも非常勤を含めた教師が約119人、学生は約2万人所属しており、大規模な語学機関となっている。CALUSACで勤務する外国人教師は、韓国語教師4名、イタリア語1名、ドイツ語教師6名、中国語教師1名、フランス語教師4名となってい

る。

CALUSAC における日本語教育について、開講当初は、JICA 海外協力隊の日本語教師 1 人のみが教鞭をとっていたが、学習者の増加に伴い JICA 海外協力隊員が 1 名増加され、2 人体制へと移行した。その後 2001 年からは、日本語クラスの開講当初に学生だったグアテマラ人が、日本での研修を終え、日本語教師として教壇に立つようになった。グアテマラ人教師が独り立ちできるようになったため、開講当初 2 名いた JICA 海外協力隊員は 1 名減り、2005 年には、JICA 海外協力隊 1 名、グアテマラ人教師 1 名の 2 人体制となった。2010 年には、当地在住の日本語のネイティブ教師 1 名、元受講生のグアテマラ人教師 2 名が加わり、5 人体制で日本語のクラスを教えることとなった。CALUSAC においては、2011 年 10 月に日本語のネイティブ教師 1 名が日本に帰国し、2012 年 5 月には日本語教師を職種とする JICA 海外協力隊員の派遣も終了したため、以後、元受講生のグアテマラ人教師 2 名体制となっていたが、2025 年 1 名体制になった。

CALUSAC 以外の高等教育機関での日本語教育は、CALUSAC で勤務する日本語のネイティブ教師 1 名が 2010 年 1 月に私立グアテマラ・デル・バジェ大学で日本語講座を開講、また、2010 年 9 月からは、私立ガリレオ大学においても同日本語ネイティブ教師が日本語講座を開講した。私立グアテマラ・デル・バジェ大学では、日本語ネイティブ教師 1 名に加え、当地在住の日本語ネイティブ教師が 1 名増え、2 名体制でクラスを実施していたこともあったが、日本語ネイティブ教師 1 名の日本への帰国により、受講者も一時減少したことから、2016 年から 2021 年にかけて一時閉講された。他方で、毎年、同大学で行われる日本文化紹介事業や JAXA 協力の下で行われた同大学によるグアテマラ初の超小型人工衛星「ケツアル 1」の打ち上げなどの影響で日本語に対する興味が高まったため、2022 年 7 月から授業が再開し、9 名(2025 年 5 月)が受講している。私立ガリレオ大学においては、受講者数が確保できないため、2011 年 2 月に閉講となった。

2016 年からは、新たに私立ラファエル・ランディバル大学においても元国費留学生による日本語・日本文化講座が開講されたが、2020 年からコロナウイルス感染拡大の影響で休講している。他方で、2022 年から、同大学で JICA チェア (JICA 日本研究講座設立支援事業) による「日本の近代化」の講座が開講した。加えて、イツモ大学では 2022 年 7 月から 2024 年にかけて、JICA チェアによる「日本の発展：近代化のプロセス」オンラインコースが実施され、日本語教育への関心が高まりつつある。2025 年は、北岡 JICA 特別顧問が来訪し、イツモ大学およびダヴィンチ大学にて「明治維新前後の日本の政治・経済・社会の変化」というテーマで講演が行われた。

私設日本語学校については、CALUSAC で教壇に立つ元受講生教師 1 名が 2010 年 9 月に私設日本語学校を開校し、2025 年 12 月現在、オンライン授業を行っている。また、私立グアテマラ・デル・バジェ大学に所属する日本語ネイティブ教師も 2015 年 7 月に私設日本語学校を開校し、2025 年現在も継続している。地方においても、武道や日本文化の普及を行っている私設文化センターが存在し、学習者数はまだ少ないものの、日本語教室を開催している。

さらに近年では、8 か国で語学学校を事業展開している私立語学センターにおいて、K ポップやドラマの影響を背景に、韓国語や中国語に加え、日本語コースにも力が入られるようになり、日本語講座が開講されている。対面での個別日本語講座が行われているほか、パナマの提携会社が提供するオンライン授業にはグアテマラからの受講者もいる。

背景

日本企業の支社などは少なく、在留邦人は 249 人 (2026 年 1 月) という少なさもあり、街角で日本語を耳にすることは少ない。しかし、日本車の人気は高く、テレビコマーシャル、看板などで、日本の国名を見ることは多い。また、空手などの武道の認知度も高く、首都においては、折り紙、剣道、合気道、生け花などのグアテマラ

人による協会があり、日本文化に興味を持つ人は少なくない。

また、テレビを通じて日本のアニメが頻繁に放映されたりアニメフェスティバル等、マンガやコスプレへの興味から日本語の学習動機につながったりすることが多い。

特徴

CALUSAC で行われている日本語クラスは、単位取得の対象外で、必修でも選択でもない。大学生を中心に年齢層は 14 歳（中学生）から 33 歳までと若者が多く、一般講座的な性格を持っている。コースは 2 か月で完結し、教科書として使われている『みんなの日本語』（スリーエーネットワーク）は 1 回のコースで 3 課ずつ消化される。また、学習者が最低 10 名集まらないとクラスが開講されないため、中級や上級レベルの学習者は次のレベルの授業をあまり取れないことが問題となっている。2025 年累計、学習者数は 200 名であった。コロナウイルス感染拡大の影響により、オンラインでの授業形態となり、多くの受講生がパソコンを持っていなかったり、インターネットの環境が整っていなかったりと受講し続けることができなくなったため、受講者数が減少した。2025 年に対面授業を開催したが、教師不足でオンラインに切り替えた。

2010 年 1 月に開設された私立グアテマラ・デル・バジェ大学の日本語コースは、選択外国語科目として存在し、同校及び同校付属学校グアテマラン・アメリカン・スクールの学習者及び職員のみ受講可能である。2016 年から一時休講していたが、2022 年から再開し、2025 年は 9 名が受講している。私立ラファエル・ランディバル大学では、2020 年以降、受講者不足のため日本語講座は開講されていない。

グアテマラで日本語を学習する者は、当国のテレビで放映される日本のアニメやドラマをきっかけに日本語に興味をもつ学生や、JICA や文部科学省の研修・留学プログラムなどで日本への留学を目指す者、日本企業との関わりがある社会人、また、日本への観光を目的に学習を始める者などが多い。

2018 年から隣国のエルサルバドルで日本語能力試験が開始されたことに伴い、将来日本での就職や留学を目指すグアテマラ人学生がエルサルバドルまで赴き、毎年試験を受ける傾向が見られる。

最新動向

グアテマラではコールセンターの設置が急増しており、日本語能力の高い職員の雇用拡大に繋がるとの見方もあったが、実際にそのような傾向は確認されていない。一方、コロナウイルス感染拡大の影響により、日本語学習者数の大幅な減少が懸念されていたが、大学での日本語コース受講者の減少は一部みられたものの、私設の語学学校の受講者は中高所得者層が多く、コロナ禍における授業のオンライン化という受講形態の変化にも適応することができた。また、授業のオンライン化により、交通費や移動時間などの削減といったメリットもあり、一部私設学校では受講者数が増加しており、対面で授業を開講している学校は減少しオンラインを継続している傾向がある。

上記に加え、コロナ禍により、一時的に在宅時間が増加したことからも、オンラインでの語学学習者が増加しており、無料で日本語が学習できる、JF の日本語学習プラットフォーム「みなと」への登録者数が現在も継続している。

教育段階別の状況

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

私立グアテマラ・デル・バジェ大学に日本語講座があり、選択科目として単位取得可能。国立サン・カルロス大学附属言語センター（CALUSAC）でも日本語講座が開講されているが単位取得不可。

学校教育以外

CALUSAC で行われている日本語コースの学習者については、平日のクラスは学生が多いが、週末のクラスには社会人も含まれる。2020 年からオンラインで授業が実施されるようになり、2020 年度当初は、パソコンやインターネット回線などの受講環境が整っていなかったため生徒数が激減した。2025 年対面授業も開始されたが教師が 1 名になったためオンラインに再度切り替えられた。

また、国際 NGO 団体であるエイ・エフ・エス（AFS）グアテマラ協会の交換留学プログラムなどを通じて中学・高校に留学する者も年に数人いる。

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

6-3-2 制。

小学校が 6 年間、中学校が 3 年間、高等学校は 2 種類あり、通常 2 年間、一部の専門高等学校の場合 3 年間。

教育行政

初等、中等、高等教育機関のほとんどが教育省の管轄下にある。

言語事情

公用語はスペイン語であるが、1996 年の最終和平協定署名により、先住民言語の使用も認められている。

外国語教育

中学、高校において英語が必修。私立の学校では幼稚部から英語教育が取り入れられているバイリンガル学校も少なくない。更に、ドイツ語やフランス語を第 3 外国語として小学部からカリキュラムに取り入れる私立の学校もある。選択外国語として教えられている非ヨーロッパ語として中国語（北京語）があげられるが、日本語を教える学校はない。

外国語の中での日本語の人気

英語やフランス語、ドイツ語といった欧米言語に比べると人気は低い。他のアジア言語の中では日本語の人気は高いものの、中国系・韓国系企業の増加やネットフリックス等による韓国系ドラマや音楽の人気上昇に伴い、中国語や韓国語の学習者も増加している。

大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。

4.学習環境

教材

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

主教材：『みんなの日本語』（スリーエーネットワーク）

副教材：『みんなの日本語 初級Ⅰ翻訳・文法解説スペイン語版』（スリーエーネットワーク）

学校教育以外

主教材：

『みんなの日本語』（スリーエーネットワーク）

『ジェイ・ブリッジ』小山悟（凡人社）

『初級日本語 げんき』坂野永理ほか（ジャパンタイムズ）

副教材：

『クラス活動集 101』高橋美和子ほか（スリーエーネットワーク）

『日本語コミュニケーションゲーム 80』CAG の会（ジャパンタイムズ）

『新日本語の基礎 漢字練習帳Ⅰ・Ⅱスペイン語版』（スリーエーネットワーク）

『漢字マスター』アークアカデミー（凡人社）

『下村式小学漢字学習辞典』下村昇（偕成社）

ビデオ教材：

『JAPAN VIDEO TOPICS』（外務省）

『みんなの日本語 会話ビデオ』（スリーエーネットワーク）

『日本語見る・聞く・話す』（NHK 放送研修センター）

『やさしい日本語』（NHK ワールド）

『まるごと 日本のことばと文化』（国際交流基金）

「まるごとプラス」（国際交流基金）

『ひろがる』（国際交流基金）JF の日本語学習プラットフォーム「みなと」

IT・視聴覚機材

コロナ禍により授業のオンライン化が進み、現在も多くの機関でオンライン日本語講座が行われている。また、オンラインでの語学学習者が増加しており、無料で日本語が学習できる JF の日本語学習プラットフォーム「みなど」への登録者数が特に地方に在住するグアテマラ人で急増している。

5.教師

資格要件

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

特に基準はないが、日本人教師の場合は、学士号取得者で、日本語教授法を学んだ日本人が望ましいとされている。グアテマラ人の場合は特に資格要件はない。

学校教育以外

特に基準はないが、日本人教師の場合は、学士号取得者で、日本語教授法を学んだ日本人が望ましいとされている。グアテマラ人の場合は特に資格要件はない。

日本語教師養成機関（プログラム）

日本語教師養成を行っている機関はない。

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

日本人教師の正式雇用はないが、当国で活動する日本語ネイティブ教師は各々私設語学学校を運営している。

教師研修

日本語教師対象の国内研修はないが、JF メキシコ日本文化センターによる日本語教師研修会に参加している。中米カリブ地域で実施している日本語教師のネットワークによる日本語教育セミナーが本年で 18 回目を迎える。当国では、これまでも中米カリブ地域日本語教師のネットワークによる日本語教師に対する研修や日本語学習者に対するオンライン教室を活用し、日本語教育の発展に努めてきている。今後も当国での日本語教育発展及び、中米カリブ地域内での日本語教師ネットワークの強化を図ることが期待される。

現職教師研修プログラム（一覧）

特になし。

6.教師会

日本語教育関係のネットワークの状況

日本語教育関係のネットワークは確認されていない。

最新動向

当国に存在する日本語教師により、教師会の立ち上げに向けた準備が進められている。

7.日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

国際協力機構（JICA）からの派遣

JF、JICA からの派遣は行われていない。

その他からの派遣

（情報なし）

8.シラバス・ガイドライン

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムは確認されていない。

9.評価・試験

共通の評価基準や試験は確認されていない。

10.日本語教育略史

1976 年

国立サン・カルロス大学附属言語センター（CALUSAC）設立

1992 年

CALUSAC にて JICA 海外協力隊員による日本語教育開始

2000年	私設語学学校「Academia Europea」が開校され、日本語コースが開設
2010年1月	私立グアテマラ・デル・バジェ大学の選択外国語科目として日本語講座が開講（2016年～2022年6月まで休講）
2010年9月	グアテマラ人教師による私設語学学校「グアテマラ日本語教育アカデミー」が開校され、日本語コースが開設 私立ガリレオ大学に日本語講座が開設（2011年2月に閉講）
2015年	日本語ネイティブ教師による私設語学学校「グアテマラ日本文化の家」が開校され、日本語コースが開設
2016年	私立ラファエル・ランディバル大学で元国費留学生を教師とした日本語・日本文化講座が開校（2020年から休講）
2020年	私設道場「ASOJAPON」を運営している日本語ネイティブ教師1名により同施設にて日本語教室が開設
2022年7月	私立グアテマラ・デル・バジェ大学の日本語講座が6年ぶりに再開
2025年	私設道場「ASOJAPON」が学校名を「ウチナー日本文化センター」に変更

情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。
なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

Eメール：kunibetsu@jpf.go.jp

（メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください）